

農家の笑顔のために

(農地カルテによりきめ細かい整備に取り組んでいます)



東部耕地出張所農地カルテ作成の取組

○より良い農地の整備のためには、事業履歴・ほ場の特徴・営農の課題の把握が必要不可欠！

農地カルテの作成

○いままでの状況は事業申請者(市町村・農協)の人員不足等のため計画時点では、これらが十分に反映されておらず実施設計の時に手戻りを生じることがあった。

○新規計画時点から東部耕地出張所職員と総合振興局調整課が、農家と一人一人に面談し、ほ場の状況や整備の要望をきめ細かく聞きとり、より地域ニーズに沿った満足度の高い農地整備をめざす！

実施地区

☆平成23年度～平成24年度新規採択

美幌美禽地区(美幌町)	受益者数	14人
美幌田中地区(美幌町)	受益者数	86人
美幌豊栄地区(美幌町)	受益者数	61人
清里地区(清里町)	受益者数	48人

☆平成25年度新規採択予定

女満別湖南昭和地区(大空町)	受益者数	33人
美幌昭美地区(美幌町)	受益者数	31人
小清水南地区(小清水町)	受益者数	40人

実施してみて



地区農家



振興局・出張所職員



実施状況

- ・[北海道への期待]道が農家のことを真剣に考えてくれていることがわかった。このような面談を以前からしてほしい。
- ・[整備の要望]やりたい整備は色々あるが資金の関係で一度には整備出来ない。事業は続けることが一番。(農地の整備は一度では終わらない。)
- ・[実情にあった整備]泥炭地で加湿状態に苦しんでいる。暗渠間隔を実情に応じ狭くするなどの対応を望む。
- ・[不安や苦情]予算が削減されていると聞いている。予定どおり施工できるのか。過去に施工した〇×建設の施工が荒く不満だった。

- ・[やって良かった!]農家が真剣に参加してくれ、仕事にやりがいを感じた。本取組の実施を最初は役場・農協から反対されどうなるか心配だったが、案ずるより産むが易かった。農家の我々に対する期待感が伝わってきた。
- ・[スキルアップになった!]自分の担当地区以外にもこのような聞取に参加し経験値が上がった。東部耕地・振興局とも回数を重ねる毎にレベルアップしている実感がある。
- ・[今後について]事業に慣れている農家と初めての農家では整備の内容、考え方に温度差があり説明に工夫が必要。事業に慣れていない農家からはアドバイスを求められる等、技術の役割が増している。

♪ 各地域でより満足度が高く、効果的・効率的な農地整備を進めるため、更にこの取組を進めていきます！

次代を担う地域の子供たちとの体験活動

(農業農村整備施設への理解の深まりと自然の大切さを
実感してもらっています。)



農業や自然を育む水の大切さを学ぶ

農業農村整備事業体験

水が畑にたまり
過ぎると作物が
うまくとれないん
だあ～
暗渠って大事な
んだね。



農業農村整備施設で ビオトープを体験

ため池って水を
ためるだけ
じゃなく、いろ
んな生き物の
すみかになっ
てるんだね



美幌温水ため池

ため池を守っ
てくれる森を
育てるぞ！

F S C 認証林での植樹体験



水土里の杜づくり -森は水土里のパートナー-

美幌町の温水ため池は昭和40年代につくられ、日本最東端のため池であると同時に、環境省レッドデータブック希少種のアカメイトンボをはじめ、ヤチウグイ等数多くの鳥類・水生生物・植物が住んでいるビオトープとして知られています。

この取組では、豊かな森林のはたらきや農業を支える水の大切さを地域の幼稚園児・小学生及びその保護者らと共に学び、環境への意識を高めました。

どじょう引っ越し作戦

捕獲中



施工機械にも
興味津々



ドジョウを守る東部
ジャー出動！



放流



小学校のみ
なさんから感
謝状をいた
だきました。

大空町の女満別豊住地域には湿地帯が広がり田んぼの横の小川(排水路)にはエゾホトケドジョウ(絶滅危惧種)をはじめ、ヤチウグイ、トゲウオなどが住んでいます。そこで、排水路として整備する前に、大空町豊住小学校・豊住保育園の皆さんと一緒に、川の生き物たちの引っ越し作業を行うと共に生き物の大切さを学びました。

♪ H21には用水路探検隊を結成しました！

オホーツクの豊かな自然とともに (環境に優しい整備に努めています)



土砂流出防止ワーキンググループ(WG)

網走東部耕地管内は、軽しよな火山灰起源の土砂から形成されており、ゲリラ豪雨等による農地などの浸食によって、河川の汚濁が問題化しています。農業と水産業との相互に調和のとれた持続的な発展が必要です。

東部耕地出張所の取り組み

背景

農地の表土流出や農地法面の崩壊による河川や海への土砂流出による汚濁

課題

大切な表土の流出や農地が崩れることは農家・漁師の損害！

環境に配慮した整備が必要

- ・職員の環境に対する確かな知識
- ・環境に貢献する農業土木技術の知識向上
- ・地域における環境状況や課題の把握

東部職員全員参加によるWG
職場研修・生態調査
環境に配慮した工法の実施

ヤナギの埋枝

環境に配慮した工法と生態調査による事後評価



採取



埋枝

客土工土取場では大きな法面が出来ますが、火山灰質の栄養分に乏しい法面のため緑化が難しい状況となっています。法面からの土砂流出が発生しない様、生命力の強いヤナギによる法面緑化に取り組んでいます。



定着



環境配慮工法の施工



生態調査の実施



トミヨ



アメマス

No	目名	科名	種名	Habitat	数量
1	ゴイ	ドジョウ科	ゴトドジョウ	3 尾	46 尾
2	サケ	サケ科	ヤマメ	1 尾	56 尾
3	トグウオ	トグウオ科	トミヨ	2 尾	1 尾
4	サケ	サケ科	アメマス		1 尾
5	ヤツメワナギ	ヤツメワナギ科	ヤツメ		2 尾

美幌町でのボックスカルバートの改修工事において、多自然型ブロック工法と共に石張型隔壁工法や石積工を実施。施工後の生態調査では施工前に比べて約18倍の数の魚を確認。



♪ この他にも藻琴湖での土砂堆積状況の確認や表土流出防止をより図れる土層改良工法の研究などを行っています。